

=====
今月号から年次の先生方からも皆さんへメッセージをお送りします。今月は1組の中島勲先生と保坂先生です。
=====

『 Be Principled ! 』

皆さんが入学する前の2020年2月に、新型コロナウイルス感染症の流行により米国カリフォルニア州 Campbell Hall 高校への短期生徒派遣は中止となり、引率する私の仕事もなくなりました。20名の先輩が2週間という日程で主にロサンゼルスに滞在し、最後にアナハイムのディズニーランドに寄って帰ってくるというホームステイ研修でした。あれからというもの、教員や学校間の交流もオンラインで済むようになり、コロナ前であれば出向いていた出張や引率も激減し、対面が当然だった英語ディベートも県内外の高校とオンラインで練習や大会に参加ができます。今年の全国高校生英語ディベート大会の論題は That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age system. 「日本政府は定年制を廃止すべきである。是か非か。」で、先日オンラインで実施された南関東ブロック大会では本校の2年生チームは見事2位にまで勝ち上がりました。労働人口の減少、高齢化の加速、AI やテクノロジーの発展、若者の育成、生産性や社会保障費の問題と様々な議論になります。少し考えてみてください。「定年制は廃止した方がよい？ 定年延長に賛成ですか、反対ですか？」定年を延長してまで続けたい、続けられる仕事に就くのもあり、退職して第2の人生で楽しみを見つけるのもありという自由な気風のこれからの社会を、皆さんがどのように幸せな道を探して歩んでいくのが楽しみです。

IBの10の学習者像の一つに Principled「信念をもつ人」というのがあります。そこにはこうあります。”We act with integrity and honesty, with a strong sense of fairness and justice, and with respect for the dignity and rights of people everywhere. We take responsibility for our actions and their consequences.”(IB learner profile より) なかなかできないので、私はこれが好きです。いま大学入試を控えて勉強に勤しんでいる皆さんにも当



てはまるものです。主体性、多様性、そんなにがんばらなくても無理はしなくても良いと言われることの多い時代だからこそ、しかし信念をもってほしい。話が戻りますが、何が良くて何が正しいかを判断するにはやはり対面、現地に行くことで確かめられるものです。最近は緩和され、学生の海外留学、短期の派遣についても戻ってきています。志望校に合格し、西高を卒業して皆さんも海外へ行ってみてください。マインド的にも、必ず違う景色が見えます。

1組担任 中島 勲

『 「青春」 してます？ 』

夏休み明けに5分前遅刻のチェックをしている志村かおり先生(勝手に名前を出してすみません)から、「青春はいつでしたか？」(ニュアンス)と尋ねられたことがありました。「自分には果たして青春と呼べる時があったのだろうか？」と悩みます。

自分の高校生活を振り返ってみると、いわゆる「競歩大会」や「学園祭」、「部活動」を頑張った記憶があるけれど、自分が経験したそれらに「青春」があったのか？ (青春としての記憶を無くしただけなのかもしれない)。むしろ、部活動と一緒に練習したり、大会で選手を応援したりしている今の方が「青春」に近いようなものを感じている気がします。

自分は遠回りが多い人生を送っているけれど、そのおかげでいろいろ経験し、こうしてみんなと会えているのだから失敗ではなかったように思っています。

さて、高校生活3回目の夏はいかがだったでしょうか？ 秋には推薦入試、およそ130日後は共通テスト、卒業式までは6ヶ月を切りました。意外とあっという間に近づいてきます。あのときにああしておけば後悔がないように、1つ1つ取り組んでいきましょう。受験は1人でしているようで、そうではなくて団体競技だと思います(もちろん主役は本人です)。1人で取り組むだけではなくて、友達やライバルと切磋琢磨してさらに成長してくれたら嬉しいです(自分は少し実力の上の同級生と模試の結果を見せ合ったり、問題出し合ったりしてレベルアップしていきました)。

僕はみんなのことをしっかりサポートしていくつもりなので、八方塞がりになる前に積極的に行動してほしいと思います。チーム西高で全力を尽くしていきましょう！

1組副担任 保坂 昂祐

